

# 大崎市子どもの心のケアハウスだより

《第7号》

大崎市教育委員会

## 子どもの友達との関係づくりについて考えよう

子どもにとって友達は家族に次いで身近な存在。友達から影響を受けることも多く、学年が上がるにつれて友達との付き合い方も変化していきます。「友達がたくさん作ってほしい」と望む親は多いと思います。しかし、自分でも気づかぬうちに「友達がたくさんいる＝みんなに好かれるいい子、協調性のある子」という先入観を持ってはいないでしょうか？

友達とどのような付き合い方をするかは子どもによってそれぞれです。積極的に友達を作り、いろいろな子と遊ぶのが好きな子どももいれば、しっかり向き合い信頼できる友達が数人いれば十分と考える子どももいます。また、友達と過ごすより、自分一人の時間を充実させたいと望む子どももいます。そのような子どもも、今は友達の数が少ないけれど、年齢が上がるに従って友達が増えていくことが十分に考えられます。子どもの友達関係については、友達の数を気にすることよりも、子どもが友達とどのような付き合い方をしているかに意識を向けてみてでもいいかもしれません。

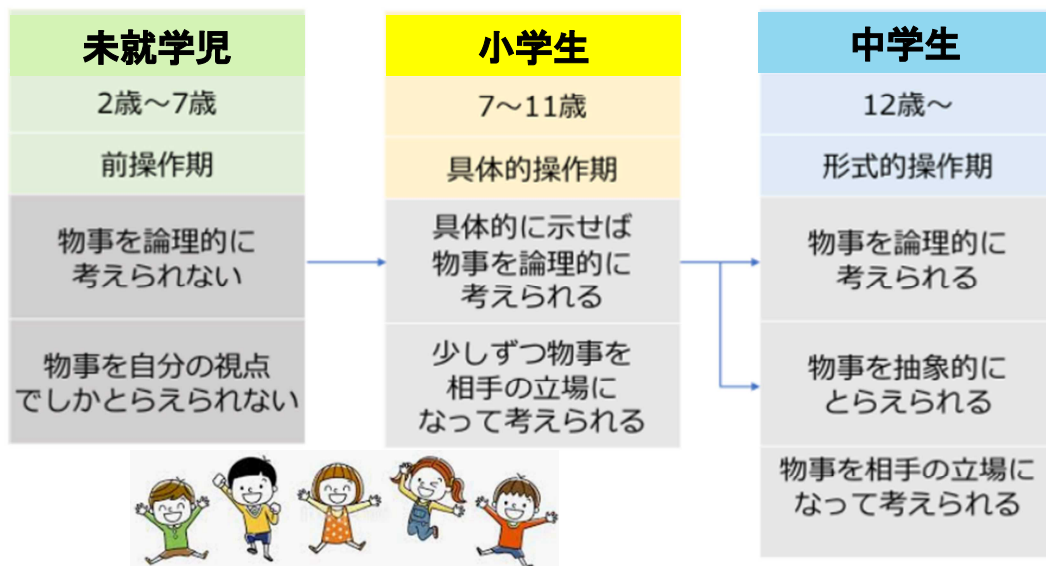
子どもの友達関係に親はどう関わればいいのか考えてみましょう。

## 子どもが周りの人をどうとらえるかで友達関係は変化します

友達関係は、子どもが周囲をどのようにとらえるかという“認知の発達”と関係しています。

認知機能とは『いろいろなもの・こと・人を見て、聞いて、触れて、体験して、知らなかったことを理解していくこと』です。入ってきた情報を整理する力のことで、「記憶、知覚、注意、言語理解、推論、判断」の5要素があります。

子どもたちは日々成長し、認知機能も発達しています。それに伴い、友達のとらえ方や関わり方が変化していくことを理解しておきましょう。



見た目やイメージだけで判断し、相手の立場になって考えたり、行動したりするのは苦手です。具体的な言葉で示してあげる必要があります。

「一緒に遊んで楽しい存在」から少しずつ変化し、「友達がいる」ことが周囲から認められる条件になったり、周りの目が気になったりします。

相手の行動や気持ちが明確に分かり、理由を考えるようになるなど、他者の目を通して自分を映し出すことができるようになります。

## 年齢とともに友達との付き合い方も変化します

子どもたちの友達関係は、年齢（学年）が上がるにつれて変化していきます。小学校の低学年・中学年・高学年、中学生での友達関係の付き合い方はどのように変化するのでしょうか。

### 低学年

小学校低学年は「同じクラスで席が近い」、「近所に住んでいる」など、そばにいたり、会う機会が多かったりする子どもと友達になりやすい傾向があります。また、性別に関係なく広く仲良くすることができます。この時期は友達関係が複雑でなく、その場で知り合った子どもとも楽しく遊べる時期です。



### 中学年

中学年では「自分の好きな子」や「気が合う子」など相性の良い子だけで集まりコミュニケーションを取り合うようになります。「グループ」を作って遊ぶようになり、連帯感を高めたりします。友達との結び付きが強くなる一方で、親やきょうだいと過ごす時間が減ってくることもあるかもしれません。人間関係が外に向かって広がる時期になります。



### 高学年

反抗期を迎える高学年は、友達の存在がますます大きくなっていく時期です。「意見が合う」「趣味が同じ」など、より内面を重視した友達付き合いになっていきます。友達と過ごす時間をさらに大切にできるようになり、秘密を持つことも出てきます。親にとっては子どもの友達関係が見えづらくなる時期です。



### 中学生

中学生の時期は、女子の場合は同じ物を持ったり、同じ話題で盛り上がりたりという“共通のモノ”で、男子の場合は一緒に遊んだり、一緒に登下校したりという“行動を共にすること”で絆が強くなる傾向があります。“他者と同じ”ということを経験し、人間関係が築かれているので、異質なところを見つけて排除してしまう傾向も見られます。仲間が必要なこの時期だからこそ、「一人でいても大丈夫な自分をつくること」がとても大切になってきます。



## 子どもの友達関係に親はどう関わればいいの？

子どもは子どもたち同士のかかわり合いの中で切磋琢磨しながら人間関係を学んでいます。子どもが友達関係を円滑にできる環境を整えながら親はどう関わればよいのでしょうか。

### ◇ 子どもを信じて、子ども同士の世界を確保してあげましょう

友達と遊ぶ時間を作り、子ども同士が関わる体験を増やしてあげましょう。多くの関わりを持つことで、コミュニケーションなど人間関係を調整する力を育むことができます。

### ◇ 温かく見守りましょう

対人関係は複雑でデリケートなものです。親は子どもの成長を見守りつつ、気持ちに寄り添い温かく支えてあげる存在になりましょう。

### ◇ 友達関係に親が介入することはできるだけ避けましょう

親が子どもの友達関係に過剰に干渉してしまうと、子どもの自立心を育むことを邪魔してしまいます。子どもが自分で解決する力を信じましょう。特に対人関係のトラブルは将来にわたり何度も起こり得ることで、子どもにとって大切な経験だと捉えましょう。

※ あからさまないじめを受けて本人が苦痛を感じている時は、早急に対処することが必要です。問題が生じた時には、直接相手に言うのではなく学校の先生などに相談するようにしましょう。